

令和2事業年度計画に係る 業務の実績(概要)



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

【令和2事業年度計画に係る自己評価結果】

(評点)Ⅳ:年度計画を上回って実施している Ⅲ:年度計画を十分に実施している
Ⅱ:年度計画を十分には実施していない Ⅰ:年度計画を実施していない

項 目	中期 計画数	年度 計画数	自己評価			
			Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
Ⅰ. 教育研究等の質の向上の状況						
(1)教育	28	54	0	54	0	0
(2)研究	16	20	1	19	0	0
(3)社会連携及び地域	2	4	0	4	0	0
(4)その他(附属病院・附属学校含む)	12	21	1	20	0	0
合 計	58	99	2	97	0	0
Ⅱ. 業務運営・財務内容等の状況						
(1)業務運営の改善及び効率化	9	10	2	8	0	0
(2)財務内容の改善	6	7	0	7	0	0
(3)自己点検・評価及び情報の提供	4	4	0	4	0	0
(4)その他業務運営	11	13	0	13	0	0
合 計	30	34	2	32	0	0
総 計	88	133	4	129	0	0

※国立大学法人評価「令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書」では「Ⅰ. 教育研究等の質の向上の状況」は記載対象外。

令和2事業年度計画に係る主な業務の実績の概要

★:年度計画を上回って実施した取組(IV)

○教育研究等の質の向上の状況

教育

- ・成績評価等の組織的チェック機能強化
- ・[全学的なオンライン授業の実施体制の構築](#)
- ・令和3年度対面授業のリスク回避に向けた対応
- ・オンラインでの学生支援体制の構築
- ・数理データ科学教育研究センター教育面における取組

研究

- ・地域限定型での完全自動運転社会実装の推進
- ・[ウイルスバクター開発研究センターの成果](#)
- ・研究環境の充実
- ・若手・女性研究者への研究活動支援
- ・新型コロナウイルス感染症に関する成果

(共同利用・共同研究拠点)

- ・[共同利用・共同研究拠点としての活動](#) ・研究所独自の活動

社会貢献

- ・食健康科学教育研究センターの取組
- ・[産業界や自治体等との連携](#)
- ・[新型コロナウイルス感染症をテーマとした地域貢献シンポジウムの開催](#)

国際

- ・[コロナ禍における国際交流活動の促進](#) ・[GFLプログラムの実施](#)

附属病院

1. 教育・研究面
 - ・医療の質・安全管理部の取組 ・[新型コロナウイルス感染症に関する臨床研究](#)
 - ・地域医療研究・教育センターの取組 ・[重粒子線に関する取組](#) ★
 - ・初期研修医採用に対する取組
2. 診療面
 - ・インフォームド・コンセントの充実について ・カルテに係る取組
3. 運営面
 - ・病院機能評価の実施 ・群馬県のクラスター防止チーム「C-MAT」への参画
 - ・患者参加に対する患者・市民の意識に関するアンケート調査の実施

附属学校

- (1) [教育課題への対応](#) (3) 地域との連携
- (2) 大学・学部との連携 (4) 役割・機能の見直し

○戦略性が高く意欲的な目標・計画の状況

[重粒子線医学推進機構に係る取組](#) ★

重粒子線治療の高度化・効率化のための研究、国内外機関等との連携

[未来先端研究機構に係る取組](#)

1. 専任教員における外国人研究者等の割合42%
2. 海外研究機関とのオンラインの活用等による研究交流
3. 外国人研究者との共著論文24本
4. オンライン配信による国際シンポジウムの開催2件

○業務運営・財務内容等の状況

業務運営の改善及び効率化

- ・[新学部「情報学部」の設置申請・認可](#) ★
- ・[新生「理工学部」の設置申請・認可及び大型の共同研究講座の設置](#) ★
- ・宇都宮大学との共同教育学部の設置
- ・学長を補佐する体制の充実
- ・医療安全管理体制に係る取組
- ・ダイバーシティ推進センターの取組
- ・[入学者選抜試験における出題ミス\(令和元年度法人評価の課題の対応\)](#)

財務内容の改善

- ・病院経営の改善
- ・外部資金獲得に係る取組
- ・群馬大学基金等を活用した学生支援
- ・研究・産学連携推進機構の取組

自己点検・評価及び情報の提供

- ・経営協議会における意見への対応
- ・広報本部に関する取組
- ・総合情報メディアセンターの取組
- ・教職大学院認証評価受審
- ・教員業績評価システムの運用開始

その他業務運営

- ・施設マネジメントに関する取組
- ・情報セキュリティ対策
- ・危機管理対応
- ・ICTコンプライアンス向上のための環境整備

教育研究等の質の向上の状況について

■教育

- 全学的なオンライン授業の実施体制の構築

学長のリーダーシップの下、オンライン授業実施推進チームを組織し、ポータルサイトの開設やFD・SD研修等を実施するとともに、学生の受講環境を調査し、受講環境のない学生に対してPC やルーターを貸し出すなどの準備を行い、聴覚障害学生への対応も含めた完全オンライン授業を令和2年4月20日から開始。

全学FD 連続講演会、学生との意見交換会やアンケートにより、後期のオンライン授業の改善を実施。

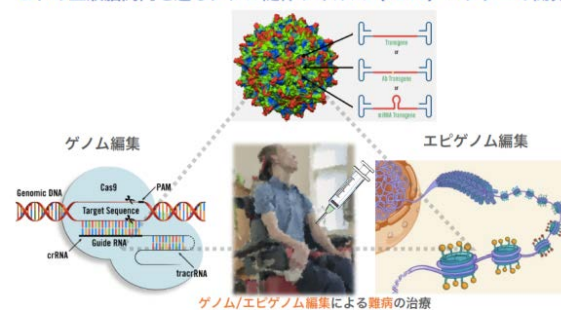


■研究

- ウイルスベクター開発研究センターの成果

「重点支援プロジェクト」で支援し、令和元年度にセンター化したウイルスベクター開発研究センターにおいて年間100件以上のウイルスベクターを国内外に提供し、積極的な研究成果を発信。

ヒトの血液脳関門を通るアデノ随伴ウイルス (AAV) ベクターの開発



- 共同利用・共同研究拠点

生体調節研究所では、共同利用・共同研究拠点として、当研究所が蓄積してきた研究成果、解析技術、研究材料などのリソースを基盤として、内分泌・代謝学研究者コミュニティが要望する共同研究課題を国際公募し、計44件を共同研究として採択。

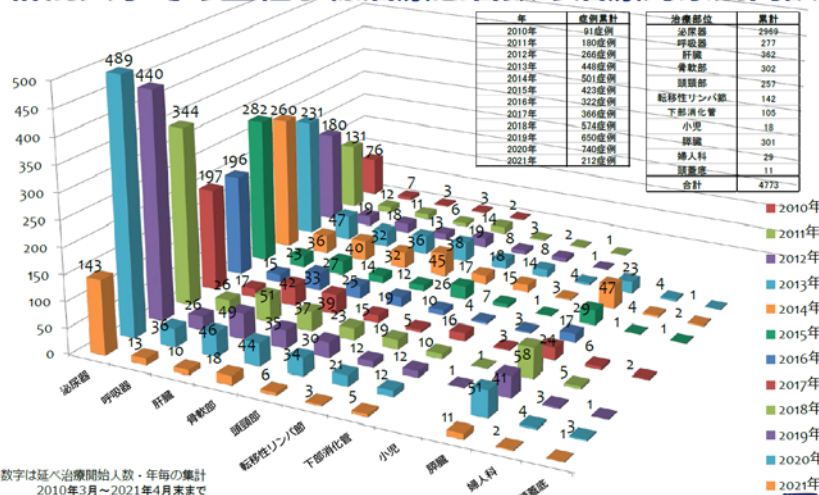
教育研究等の質の向上の状況について

■ 附属病院

● 重粒子線に関する取組

国内外の施設間連携を推進するため、大阪重粒子線センター、神奈川県立がんセンター、韓国ヨンセイ大学とMOU(学術交流に関する協定)を締結し、重粒子線治療に関する教職員の交流協力及び肝臓癌、膵臓癌、肺癌に対する多施設共同臨床試験等を実施。年内患者数が、コロナ禍にもかかわらず過去最高の740人(当初目標600人)。医療の質と安全面に配慮しながら体制を整備。

群馬大学での重粒子線治療患者数の治療対象別内訳



■ 附属学校

● 教育課題への対応

小学校では、「提案授業の公開や、「タブレット端末の導入・活用に関する情報交換会」をオンラインで実施。中学校では、オンラインによる「ICT 活用実践発表会」を実施、タブレット端末を活用した授業実践を紹介。特別支援学校では、オンラインによる公開研究会を実施。幼稚園では、「幼児にとって必要な教育課程を考える」をテーマとして、リモート講演会を実施。

群馬大学共同教育学部附属小学校
タブレット端末の導入・活用に関する情報交換会のご案内

GIGAスクール構想実現に必要な取組を一緒に相談しましょう

本校では、本年度、GIGAスクール構想推進のためのネットワーク環境を整備され、1人1台のタブレット端末が導入されました。導入にあたり、本校ではiPadやロイノート等のアプリの活用、周辺機器等の整備、教職員や児童のアカウントの設定、タブレット端末を活用するためのルール作り等、1人1台端末を円滑に運用するために様々な取組を行ってまいりました。

この度は、このような本校の取組を他校の先生方へご紹介し、ご意見やご質問をいただくことで、1人1台端末のさらなる有効な活用の仕方、実効性と共に勉強させていただきたいと考えています。2つの異なるテーマの分科会を同時期に開催いたしますので、ぜひご参加ください。

日時：3月5日(金曜日) 15時45分から16時45分	
分科会Ⅰ 環境整備と授業での活用	分科会Ⅱ 活用のルールと授業や行事における活用事例
<input type="checkbox"/> 1人1台端末導入に向けた準備	<input type="checkbox"/> 教職員及び児童IDの設定の仕方
<input type="checkbox"/> 校内及び周辺機器の整備	<input type="checkbox"/> タブレット端末使用上の約束
<input type="checkbox"/> ICT機器を活用した働き方改革	<input type="checkbox"/> 個人情報保護対策やフィルタリング
<input type="checkbox"/> 会議資料や学校連絡等のペーパーレス化	<input type="checkbox"/> ZoomやYouTubeを用いた行事
<input type="checkbox"/> PTA活動のオンライン化	<input type="checkbox"/> タブレット端末を活用した授業実践

参加方法はオンライン(ZOOM)です。参加費は無料です。
3月3日(水曜日)までに申込みフォームよりお申し込みください。
<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf7i7YpGdHmPH7IGkZqR8w7NtEz2aA-eYAb5SDNv3tr9q/viewform>
もしくは、以下のQRコードよりアクセスしてください。
ご質問がありましたら、お申込みの欄に力をお願ひいたします。
なお、お申込み後、当日のミーティングアドレス等をご連絡させていただきます。

群馬大学共同教育学部附属中学校
一人一台端末をどう活用するか？

オンラインによるICT活用実践発表会のご案内
10月21日(水)・22日(木)・23日(金)
16:00～

21日(水) 全体研修
○一人一台タブレット端末で授業はどう変わるか？
○ロイノートを活用した授業の実例

22日(木) ICT活用実践発表会①
国語、理科、英語、音楽・美術、技術・家庭科

23日(金) ICT活用実践発表会②
社会、数学、保健体育、道徳

※詳細は、裏面をご覧ください。
実践発表会はZOOM及び併用してオンラインで行います。
P.C.、タブレット、スマホなどがあれば、どなたでもご自宅や勤務先より参加可能です。

<申し込みはこちら>
<https://forms.gle/v8UQtoAcl4s0s98>
申し込みフォームはこちら

戦略性が高く、意欲的な目標・計画の状況

■ 重粒子線治療の教育・研究の推進

● カーボンナフ治療開発研究

微小ビームの生物・動物実験への応用のため、動物の精密位置決め用のX線照射・受像装置を組み込み、試験を実施。

放射線フィルムを用いて線量と線質を同時に測定・定量化する方法を開発し、単一エネルギー炭素線にて実証。

● 国内外機関との連携

QST高崎研との共同研究で、マウス体内で重粒子線が停止する様子をコンプトンカメラで捕らえることに成功。

JAXA、東北大学、プレリビュー大学(米国)との共同研究により、月・火星を模擬した宇宙放射線と低重力を模擬した実験装置を開発し、共著の論文を報告。

GSI(ドイツ)、ボローニャ大学(イタリア)と、宇宙研究を目指して、冬眠による重粒子線防護研究を実施。

★ 年度計画を上回って実施した取組(IV)

■ 未来先端研究機構における世界水準の研究力の強化

- オンラインの活用等による若手研究者の研究交流(カトリンスカ研究所、マントバ大学、モンペリエ大学)。
- 外国人研究者との共著論文を24本発表。
- 国際シンポジウム(第9回・第10回)を、国内外から著名な研究者を招聘し、オンライン配信にて実施。

The 9th International Symposium of Gunma University Initiative for Advanced Research (GIAR)
Breakthroughs in Cancer Metabolism and Technological Perspectives

Date: February 25th, 2021 17:00-19:35 in Japan
February 25th, 2021 9:00-11:35 in France, Belgium

Venue: To be held Online between Gunma (Japan) and Montpellier (France), Brussels (Belgium)

WELCOME ADDRESS
 17:00 - 17:30 in JST
 9:00 - 9:30 in CET
EXPERT TALK Part I
 17:30 - 17:40 in JST
 9:30 - 9:40 in CET
 Preventing cancer metastasis with superoxide scavengers
 Yoko Shimizu (University of Lincoln, UK, England)

17:40 - 18:10 in JST
 9:40 - 10:10 in CET
 Targeting MDM2-dependent serine metabolism: a therapeutic strategy for liposarcoma
 Yuhiko Inoue (Nippon Institute of Health, Japan)

DATA BLITZ
 18:10 - 18:25 in JST
 10:10 - 10:25 in CET
 ITP2 - A novel regulator of mitochondrial performance in hepatocellular carcinoma
 Chikara Kato (Nippon Institute of Health, Japan)

EXPERT TALK Part II
 18:30 - 19:00 in JST
 10:30 - 11:00 in CET
 Metabolic regulation of cancer cell fate in myeloid leukemia
 Takahiro Ito (Kyoto University, Japan)

19:00 - 19:30 in JST
 11:00 - 11:30 in CET
 Programming bacteria to detect and treat metabolic diseases
 Kenzo Hama (CEA Saclay, France)

CLOSING REMARKS
 19:30 - 19:35 in JST
 11:30 - 11:35 in CET
 Takahiko Yokohori (GIAR, Gunma University)
 Kenji Kubota (GIAR Director / Vice President of Gunma University)

Organizers: Andrei Turtov (IRCM, INSERM, University of Montpellier)
Takahiko Yokohori (GIAR, Gunma University)

For Pre-Registration: <http://www.gunma-u.ac.jp/giar2021/>

*The registration completed, the ID/PW would send you via Email by the day.

Contact: GIAR Support Office: kk_kansu@post.gunma-u.ac.jp

The 10th International Symposium of Gunma University Initiative for Advanced Research (GIAR)
Remarkable Advances in Fluorine Chemistry

Date: March 18th, 2021 16:00-18:50 in Japan
March 18th, 2021 8:00-10:50 in France

Venue: To be held Online between Japan and France

WELCOME ADDRESS
 16:00 - 16:05 in JST
 8:00 - 8:05 in CET
 Hideaki Amari (President of Gunma University)

TALK
 16:05 - 16:55 in JST
 8:05 - 8:55 in CET
 Cyclizations in Cation-Stabilizing Hexafluoroisopropyl Alcohol (HFIP)
 Naoya Nakano (University of Tsukuba, Japan)

17:00 - 17:50 in JST
 9:00 - 9:50 in CET
 Novel Methodologies Towards Emergent Fluorinated Substrates
 Yoshitaka Inoue (University of Tsukuba, Japan)

17:55 - 18:45 in JST
 9:55 - 10:45 in CET
 New PVDF and VDF Copolymers as Unique Fluorinated Materials
 Bruno Armesdat (Institut Charles Gerhardt Montpellier, France)

CLOSING REMARKS
 18:45 - 18:50 in JST
 10:45 - 10:50 in CET
 Kenji Kubota (GIAR Director / Vice President of Gunma University)

Organizers: Hideaki Amari (GIAR, Gunma University)

For Pre-Registration: <http://www.gunma-u.ac.jp/giar2021/>

*The registration completed, the ID/PW would send you via Email by the day.

Contact: GIAR Support Office: kk_kansu@post.gunma-u.ac.jp

業務運営・財務内容等の状況について

■新学部「情報学部」の設置申請・認可

- 令和3年度からの情報学部の設置について令和2年9月に認可。

(特色等)

◆ 社会情報学部で実施してきた人文科学や社会科学における情報教育と、理工学部電子情報理工学科情報科学コースで実施してきた情報科学の基礎理論から応用技術の情報教育の要素を合わせ、さらに、高度の情報社会に対応するための統計の基礎、データサイエンス・AIなどの教育も含めた新たな教育研究体制。

◆ 4つのプログラム、情報を基盤とした文理横断型の教育等が特色。



★ 年度計画を上回って実施した取組(IV)

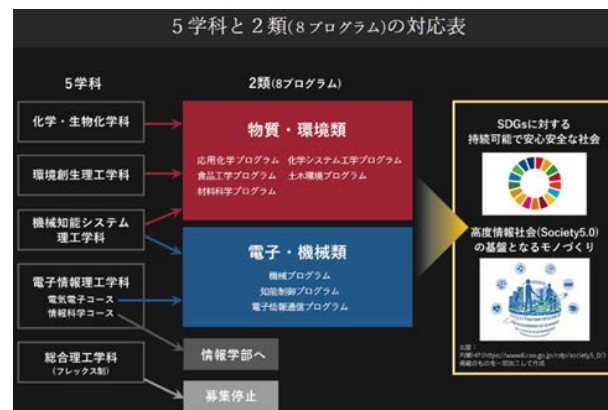
■新生「理工学部」の設置申請・認可及び大型の共同研究講座の設置

- 令和3年度からの理工学部の改組について令和2年9月に認可。

(特色等)

◆ 従来の5学科体制から、分野横断的な教育を強化するため、2類8教育プログラム体制に再構築。

◆ 理工学の知識を基にした食品工学、化学と物理の融合した材料科学、電気と機械の融合した知能制御を学べるプログラムを新設。



- 群馬大学と(株)SUBARUとの共同研究講座「次世代自動車技術研究講座」を大学院理工学府内に令和2年4月1日付で設置。包括的に共同研究を実施。

★ 年度計画を上回って実施した取組(IV)

業務運営・財務内容等の状況について

■令和元年度法人評価の課題事項への対応状況

• 入学者選抜試験における出題ミス

(課題事項)

- ◆ 令和2年度医学部推薦入試における出題ミスが発生したことにより追加合格の措置を実施していることから、チェック体制の見直し等、再発防止に向けた組織的な取組を引き続き実施することが望まれる。

(対応状況)

- ◆ 令和元年度に令和2年度医学部医学科推薦入試において試験問題の出題ミスが発生したことから、再発防止に向けて前年度から強化した取組を以下のとおり実施した。
 - ① これまでの「出題採点委員」を「出題委員」と「採点委員」に区別し、各委員の役割を明確にして、責任を持って業務に取り組めるよう改善し、それぞれに委員長をおく。また「出題委員」を1名増員し、計3名とする。
 - ② 査読については、これまで出題採点委員長、入試部会長、医学科長の3名で行っていたが、入試部会全員を加え合計10名で、チェックポイントや役割分担を明確にしたうえで行うよう改善する。問題ごとの教科に応じて共同教育学部教員等へも査読を依頼する。
 - ③ 入試実施日の前日までに入試部会員以外の教員による試解答を実施する。